

## &lt;全体分析&gt;

試験時間

100分

## 解答形式

大問Ⅰ～Ⅳはすべて客観式（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲはマークシートを用いる）で、Ⅴの英作文は記述式。

## 分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）※長文3題の総語数は2,357から2,451になった。

難易（易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化）

## 出題の特徴や昨年との変更点

- ・英文を素材とした長文問題の大問数は例年どおりⅠ～Ⅲの3題で、設問数は2023年度の32から1問増えて33となった。英文はここ数年のものと同様に読みやすく、設問にも紛らわしい選択肢は少ない。
- ・大問Ⅳでは、2023年度と同様に、会話文形式の和文英訳問題が出題されず、大問Ⅲの英文に関する日本語で書かれた論評を読み、その2つに関する英語で書かれた内容一致形式の設問に答える問題が出題された。
- ・大問Ⅴの自由英作文は、2012年度以来の形式を踏襲して、長文問題で出された英文の内容に基づき、与えられたテーマについて論じるものである。
- ・大問Ⅵでは、英語の引用例がなくなり、「著者名と出版年を入れること」や「引用符を使うこと」という指示が日本語で書き加えられた。

## その他トピックス

- ・大問Ⅰ～Ⅲを通じて、ある段落の要旨を問う設問は、2024年度は出題されなかった。
- ・2022年度から引き続き、発音問題は出題されなかった。
- ・2022年度に出題されていた、英文の一部を発話した際、文脈上最も強く発音する単語を問う設問は出題されなかった。

## ＜大問分析＞

番号	区分	出題分野・テーマ	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	読解総合	「リモートワークの普及による恩恵」 (773 words)	空所補充が 11 問出題されている。 空所前後の文脈把握力が試されているが、全体に素直な設問が多く、文法的にも選択肢を絞ることができるものもあるので、正解は決めやすい。	標準
II	読解総合	「リモートワークの負の側面」 (847 words)	空所補充、内容一致。 空所補充の選択肢は、語句や節、数値などバラエティに富んでいるが、文脈に照らして判断すれば絞りやすい。16 は直前の <b>one in five of all respondents</b> を「すべての回答者の 20%」と考えることがポイント。19・20 は、与えられた英文が、「I の英文の筆者が賛成するか」「II の英文の筆者が賛成するか」「両方の筆者が賛成するか」「どちらも賛成しないか」を推論する問題。	標準
III	読解総合	「偽情報に対するリテラシーを身につけるために必要なこと」(831 words)	空所補充、内容一致。 ほとんどの設問で文脈を読み取る力が試されている。29 の <b>mixed results</b> は「よくも悪くもある結果」の意味。32 は名詞と形容詞でアクセントの位置が同じ組み合わせのものを選ぶもの。33 は動詞と名詞でアクセントの位置が異なる組み合わせのものを選ぶもの。	やや難
IV	読解総合	「F. Bayt 氏の論考に対する批判」	III の英文に対する日本語で書かれた論評を読み、それらについて英語で書かれた設問に答える問題。問われているのは III の英文と IV の和文の関係で、III を中心に該当箇所を探すことになるだろう。b は、「IV の筆者が、III の筆者の意図を取り違えているもの」を選ぶもの。c は、「III の英文の筆者が支持し、かつ IV の筆者が異議を唱える考え」を選ぶもの。	標準
V	英作文	自由英作文	(A)(B) のテーマのどちらかに関して、大問 I～IV の長文で言及されている見解や事柄を引用しながら自分の意見を英文で論じる問題。解答欄のスペースから判断して、150～200 語で書くのが適当だろう。2018 年度以降、「自分の意見と異なる見解に言及し、それに反論すること」という指示がある。	やや難

注：区分は「英文解釈」「読解総合」「英作文」「文法・語法」「聞き取り」「その他」

難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## ＜学習対策＞

- ・読解総合の問題では例年、合計で2,500語程度の英文を読まなければならないが、それほど読みにくい英文ではないので、標準レベルの難度で論理展開が明確な英文を選び、パラグラフごとに内容を整理しながら手早く正確に内容を読み取る訓練をしておけば十分に対応できるだろう。なお、空所補充の設問で確実に正解を得るためには、基本的な語彙や表現に関する知識をマスターしておくことが必要。
- ・2023年度から出題されなくなった和文英訳は、今後復活する可能性があること、加えて自由英作文の下支えにもなることから、練習を怠らないようにしたい。過去問を参照しつつ、友人や家族、同僚同士の対話文のサンプルに触れ、役立つと思われる表現を数多く記憶し、それらを使いこなす練習をしておくこと。その際には、日常的なだけでなく表現の習熟も視野に入れておくとういだろう。
- ・大問Ⅳの和文を与えられた上での内容一致は、普段から同じテーマの英文を読む際に、それぞれの論者がどういう立場にあるのか、主張の根拠は何か、各論者におけるそれらの対応関係はどうなっているかを確認するようにしたい。また、過去問を解く際には、2012年度以降の形式では、あるテーマについて対立する考えの英文が出題されているので、これを読む際に、主張や根拠の対立関係を意識するようにしておくこと、なおよいだろう。
- ・自由英作文に関しては、意見論述型を演習しておく必要がある。長く書くほどスペリングミスをはじめケアレスミスが多くなりがちなので、無理に語数を増やそうとするのではなく、自分が正しく使える表現を用いて、内容に破綻のない英文を書けるようにすること。身近な内容に関する出題が多いので、身の回りのニュースなどに興味を持って、自分の意見を形成し、その理由を正確に英語で表現できるようにしておきたい。